

2012年9月25日



新関西国際空港株式会社

環境先進空港を旨として

水素燃料電池バス走行実証開始！

2012年10月28日(日)にオープンする第2ターミナルビルへのアクセスとして、空港駅そばのエアロプラザより連絡バス(無料)が運行されます。

環境先進空港を目指す関西国際空港では、この連絡バスの一部の便で水素燃料電池バスの走行実証を行います。

本実証は、1期空港島 ポートターミナル付近に設置している水素ステーションで水素を補充し、関西では初の水素燃料電池バスの運行となり、環境に配慮した水素エネルギー社会の実現へ向けて新たな第一歩を踏み出します。

なお、本実証は水素供給・利用技術研究組合(HySUT)と、独立法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)との共同研究事業である地域水素供給インフラ技術・社会実証(JHFC3*1)の一環です。

記

□ 水素燃料電池バス 運行概要

・エアロプラザ ～ 第2ターミナルビル(T2)間の連絡バスとして運行

(運行日 : 土・日・祝日の10:00～17:00)



名称 : 燃料電池バス FCHV-BUS

全長/全幅/全高 : 10,515 / 2,400 / 3,360mm

定員 : 63人

*1「JHFC3」

JHFCとは、経済産業省が実施する「水素・燃料電池実証プロジェクト」の英名 Japan Hydrogen & Fuel Cell Demonstration Project の略称です。

第1期(JHFC1, 2002-2005年度)、

第2期(JHFC2, 2006-2010年度)を経て2011年度から

実施の「地域水素供給インフラ技術・社会実証研究」を JHFC3 と称しています。

2012年9月25日

記者各位

水素供給・利用技術研究組合

関西で初の燃料電池バス走行実証のお知らせ

～関西国際空港第2ターミナルビル連絡バス運行開始～

水素供給・利用技術研究組合(略称:HySUT、東京都港区赤坂 2-10-5 理事長:斎藤健一郎)は、(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)との共同研究である地域水素供給インフラ技術・社会実証(JHFC3*)の「[1]技術・社会実証研究」の一環として、関西国際空港第2ターミナルビル(LCC(ローコストキャリア)専用ターミナル)のオープンに合わせ10月28日より第2ターミナルビル連絡バスとして燃料電池バスの走行実証を開始します。

燃料電池バスの本格的な走行実証は関西エリアでは初となるものであり、本実証を通じ、クリーンエネルギーとして期待を集める水素及び燃料電池自動車の普及啓発を図ります。

◇ 燃料電池バスの走行実証

エアロプラザ(第1ターミナル)～第2ターミナルビル連絡バスとしてシャトル運行します(無料)。

- 【運行開始日】 2012年10月28日(日)
- 【運行日】 土・日・祝日
- 【運行会社】 新関西国際空港株式会社
- 【使用台数】 1両
- 【燃料充填】 関西空港水素ステーション等にて充填予定
- 【車両仕様】 主な仕様は以下の通り。

車両	名称	FCHV-BUS
	ベース車両	日野ブルーリボンシティ (ノンステップ大型路線バス)
	全長/全幅/全高	10,515/2,400/3,360mm
	乗車定員	63名
性能	最高速度	80 km/h
燃料電池	名称	トヨタFCスタック
	燃料	水素ガス
モーター	最高出力	80kW(109PS)×2



図1. 燃料電池バス

◇ 運行開始に伴うイベント

本運行開始に伴い、HySUT は以下のイベントにおける試乗等を計画しております。

- ▽ 関西国際空港 エコ関連イベント
- ▽ 第2ターミナルビル記念式典等

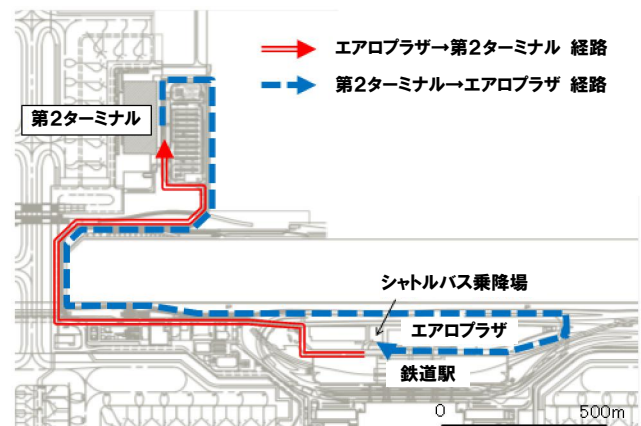


図2. 運行経路

*1「JHFC3」

JHFCとは、経済産業省が実施する「水素・燃料電池実証プロジェクト」の英名 Japan Hydrogen & Fuel Cell Demonstration Project の略称です。第1期(JHFC1, 2002-2005年度)、第2期(JHFC2, 2006-2010年度)を経て2011年度から実施の「地域水素供給インフラ技術・社会実証研究」を JHFC3 と称しています。

添付資料:「水素供給・利用技術研究組合」の概要

～ 本件に関するお問合せ先 ～

水素供給・利用技術研究組合 担当：石川 榎本 電話 03-3560-2803

URL:<http://hysut.or.jp>

添付資料 「水素供給・利用技術研究組合」の概要

- (1) 理事長 齋藤 健一郎
(JX 日鉱日石エネルギー株式会社 研究開発本部 研究開発企画部長)
- (2) 所在地 東京都港区赤坂二丁目10番5号
- (3) 設立日 2009年7月31日
- (4) 設立目的 2015年のFCVの一般ユーザーへの普及開始を目指し、実証研究の実施を通じて水素供給インフラのユーザー利便性、社会受容性と事業成立性の課題を検証・解決する。
 - ◆ 2011年度より独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)との共同研究事業の「地域水素供給インフラ技術・社会実証〔1〕技術・社会実証研究」、NEDO委託事業の「水素製造・輸送・貯蔵システム等技術開発事業／水素ステーションの設置・運用等に係る規制合理化のための研究開発」、及び福岡水素エネルギー戦略会議実証活動支援事業の「北九州水素タウンを活用した実証研究」の3事業を主として実施中である。
- (5) 参加企業・団体 JX 日鉱日石エネルギー株式会社
(18社・団体) 出光興産株式会社
岩谷産業株式会社
大阪ガス株式会社
川崎重工業株式会社
コスモ石油株式会社
西部ガス株式会社
昭和シェル石油株式会社
大陽日酸株式会社
東京ガス株式会社
東邦ガス株式会社
トヨタ自動車株式会社
日産自動車株式会社
日本エア・リキード株式会社
株式会社本田技術研究所
三菱化工機株式会社
一般財団法人エンジニアリング協会
一般財団法人石油エネルギー技術センター
- ◆ 技術研究組合とは
産業技術に関する試験研究を共同して行うことを目的に、技術研究組合法(昭和36年5月6日法律第81号)に基づいて設立される法人。組合に参加する企業等の同志的結合の組織であり、試験研究を共同で行い、その成果を組合員が享受し合うことで組合員の共同利益を追求するという性格を有している。